障がいと向き合っていくために

長井市立長井北中学校　二年　長谷川　楓

皆さんは「障がい」と聞いて、どんな印象を受けますか？きっと悪いものではないでしょうか。そんな私は、二つの軽度障がいを持っています。

中一の冬に母と病院へ行き、「ADHD」と「抜毛症」と診断されました。当時は、自分がそんな障がいを抱えていることを理解できませんでした。「なぜ、私なのだろう。」と悩み、眠れぬ日がたびたびありました。ふと、家に帰る車の中で母が言っていた言葉を思い出しました。

母は、

「今日、結果知れて良かった。楓への対応も見直せるし。」

と言っていました。その言葉を思い出して、私はとても励みになりました。

私の母は、障がい者支援施設に勤めており、「サービス管理責任者」という資格を持っています。これを機に、仕事をする時に、どんな事が大事なのかを母に聞いてみると、施設を利用する人や、ご家族が安心して使ってもらえるようにサービスを提供することが大事と教えてもらいました。教えてもらったことから、母は、利用する方々だけでなく、そのご家族のこともしっかり考えてくれて、責任者として引っ張っていることを知って、「すごくかっこいいな」と思いました。

私は、前々から、幼馴染に障がいについて相談をしていました。すると、

「そんな深く考えなくていいと思う。別にADHDだとしても私は仲良くするし。」

と言ってくれました。そして、結果を伝えたら、

「分かって良かったね！もやもやも消えた！」と言ってくれました。私は、その言葉を言って

くれた時、とても嬉しくて泣いてしまいました。そして、「頑張ってなおすぞ」というやる気と「言って良かったな」という安心感を覚えました。

私は、学校生活で以前から、提出物を期限内に出すことや、忘れずに提出することが苦手でした。私は、これを機に、自分でも意識することにしました。期限がある物は、メモを取ったり、ふせんで印を付けたりなど、自分なりに忘れないようにする工夫をしました。すると、段々と期限内に出せるようになりました。私は、「頑張って良かったな」と感じました。

私の他にも、「障がい者」は沢山います。身体障がいや知的障がい、精神・発達障がいなど、様々あります。さらに、医療機関が発達した影響で、高齢者が増えている現状もあります。そんな中、「障がい者」に対して手を差し出してくれる人が沢山います。私も、実際にたくさんの人に支えてもらい、助けてもらいました。母や幼馴染のように、「障がい者」や、困っている人に対して、優しく手を差し伸べて、支えられる人になりたいです。そして、このような考えを持つ人が増えるように、自分から進んで行動していき、よりよい社会にしていきたいと思います。